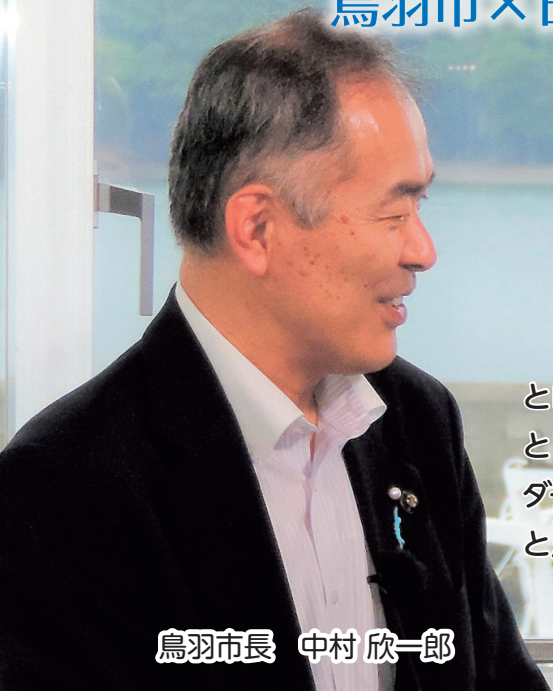


伊勢湾海岸漂着物の問題を考える。

鳥羽市×日本財団「海と日本プロジェクト」

環境課環境保全係 ☎ (25) 1147



鳥羽市長 中村 欣一郎

平成30年5月31日、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動であります海と日本プロジェクト in 三重県の推進リーダー・松下さんが鳥羽市を訪れ、中村市長と鳥羽の海について対談を行いました。



海と日本プロジェクト in 三重県
推進リーダー 松下 凧

鳥羽の海の魅力とは

中村市長 鳥羽の海は、太平洋側の外界の海と、伊勢湾の内海が混ざり合っています。それに加え、伊勢湾に流れる川からは、山の養分が海に注がれていて、鳥羽の海には魚や海藻が豊富という特徴があります。

このおかげで、鳥羽の海は、海に関する事なら、あらゆる事が可能です。例えば、海水浴、レジャー、マリンスポーツが楽しめますし、さらに、真珠養殖などの産業も大変発展しています。もちろん、海の幸も豊富です。

松下さん 私も最近、鳥羽の豊かな海を味わいました。鳥羽駅のすぐそばに、鳥羽マルシェというレストランで、さまざまな種類の魚や海藻を使った料理がバイキング形式で食べることができ、鳥羽の海の豊かさが実感できました。

中村市長 そうですね。鳥羽には、海はもちろん山のものなどもあり、おいしいものがたくさんあります。

松下さん 食べたいものがあります。困りました。

中村市長 ぜひ鳥羽のいろいろなおいしいものを食べてみてください。

鳥羽の海が抱える問題

松下さん 以前、鳥羽の海のごみが大量に集まる答志島へ視察に行つて、現場のかたと話をしました。そこで見た、目の前にある大量のごみに驚いていたら、現地のかたに、「今日は、すくない方。答志島には鳥羽の海にある4分の1以上のごみが集まるから、もつとひどいときが多い」と指摘されて驚きました。

中村市長 浜が見えないほどごみが集まる答志島・奈佐の浜は、浜自体が、伊勢湾に向かって受け口になってしまっているんです。ごみ問題の解決には発生抑制が大事で、ごみを出さない・流さないが大切です。一人一人が行動を変



えることで、環境を変えていくことができます。

松下さん 少しのことで変わるんですね。

中村市長 流木などのごみに関しては、山の手入れをするだけで、下流域の事情が変わるので、そこを分かってほしいですね。

松下さん 流木などの自然のごみを海に流さないようにするには、林業と漁業の協力が必要なんですね。

中村市長 はい。海ごみの問題には、いろいろな要素があるんです。特に伊勢湾のごみは三重県だけの問題ではなく、上流域である愛知・岐阜も関わってくるので、みんなで力を合わせなくてはいいかなと思います。

中村市長×推進リーダー が考える海とは

中村市長 最近、子どもたちが海で遊んでいないんです。時代の流れもありますが、これはなんとかして、とにかく子どもたちを海に引っ張り出したいんです。

松下さん 市長は子どもの頃、どのような海の体験をしていたんですか？

中村市長 海で泳ぐのはもちろんですが、シーカヤックをやっている、大人になってから子供会でやってみたくて。そうしたらカヤックに子どもたちが乗り、水に触れると、それをきっかけに、子どもたちが海に興味を持つようになったんです。

松下さん しかし昨今では、

子どもたちに海での体験を提供するのも大変なんですね。

中村市長 はい、こういう活動は、継続が非常に難しいので、鳥羽の全産業と一緒にやって取り組めればと思っています。そのことを通じて鳥羽の海を、子どもたちに海をよく知るきっかけとなる場所になってほしいと思っています。

松下さん 推進リーダーとしての活動を通じて「海は身近な存在だ」と理解したことで、それを多くのかたに広めたいと思います。

海と日本プロジェクト の取り組みとは

松下さん 今年も、みえの

うみ通信社”を作り、子ども記者に、三重の海取材してもらい、多くの人が読んでもらえる記事を作ってもらおうと思います。特に今年には、伊勢志摩の海取材する予定です。

中村市長 子ども記者には鳥羽市立海の博物館に行ってもらい、海に興味を持ってほしいですね。海の博物館は、子どもたちに人気の潜水艦があったり、どうやって魚が人間の知恵に負けて釣られているかなどを考えたりする場所としても非常に重要ですから。また、子どものときに体験したことは、すぐに分かるなかつたとしても、大人になつたときに理解することもあります。ですから、とにかくスタートしてもらうことが肝心なので、ぜひ、海の総合学習という意味で、海の博物館を利用してほしいですね。

松下さん はい。子ども記者のみならずにも伝えます。また県内でのイベントや三重テレビで三重県の海の魅力を発信する番組を放送したり、ホームページでも番組を配信したりしています。

中村市長 ぜひ多くのかたに鳥羽の海の魅力や問題はもちろん、三重の海の魅力を発信してくださいね。

海を次世代に受け継ぐ ためには

中村市長 今昔も海は変わらないうえ、人間が変わっている、海で遊ぶ子どもたちが減ったと思います。まずは海に子どもたちを連れていって、それをきっかけに子どもたちに海に興味を持ってもらうことが、次世代に海を引き継ぐコツなんではないでしょうか。

松下さん その上で、鳥羽の海は利便性もいいんですよね。

中村市長 はい。特に国道や駅から海が近いので、鳥羽の海に来ることを強く推薦します。鳥羽の海には、泳いだり、釣りをしたり、海女文化もあります。他にも、離島もたくさんあって、船が行き交っています。働く船、漁船、フェリー、定期船など、見るところがたくさんあるので、多くの子どもたちに来てほしいですね。

松下さん 市長も海の魅力を伝える活動をされているんですね。

中村市長 はい。多くのかたに海の魅力に気付いてほしいと思います、その中でも力を入れていることの一つに、



漂着物のアートがあります。気になる流木を拾って来て、それを組み合わせさせてアート作品にするというシンプルなものです。

松下さん 市長自ら指導をされているそうですね。

中村市長 このアートは見るだけでなく、作ることも楽しいので、私自身、子どもたちを巻き込んでいって、学校に指導者になって教えに行っています。そうすることで、海のごみの問題などを、自然に知ることができるようなんです。その上で、人生の早いうちで気付いてもらって、何十年も海を気にかけて生活するかが増えてほしいと願っています。

松下さん 海のアートに私も挑戦できるのでしようか。

中村市長 もちろん、誰でもできます！

